令和６年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑥障がいのある子どもの理解

◆　発達障害はいろんな種類があり、診断されていなくてもグレーゾーンの子どもは増えてきている。実際に演習を行い、伝えることの難しさ、伝わらないもどかしさを実感した。受け取りたいという気持ちで話を聞くことは大切だと思った。保護者との関わり方も具体的に教わり、これから実践していきたい。障がいや特徴のある子どもは、私たちの伝え方で結果が変わるため、その子にあった対応・支援を行うことが重要だと感じた。相手に寄り添い対話できるよう心がけていきたい。

◆　発達障害は４つの種類があるということをまず知りました。それぞれへの対応の仕方・対処の方法があることも知ることができました。グレーゾーンの子どもは全体の１４％いるということ、少し多いと感じました。知的障害・発達障害ともに、本人の話を聞いて一緒に考えたり、本人の気持ちに寄り添って対応したりしながら、一緒に頑張りたいと思いました。障がいのある子どもをもつ保護者にも寄り添って、信頼関係を創っていけるよう笑顔で対応していきたいと思います。

◆　児童数は減少していますが、発達障害の可能性がある子どもの割合が増えている現状を知りました。発達障害に対する考え方を学んだことで、特徴を理解した適切な対応ができていれば、子どもが困る機会が減り、安定して過ごすことができると理解しました。この対応はとても重要であり、支援員として、対応力の向上に努めなければならないと思いました。

◆　障がいを持っている子どもが一生懸命発信しようとしている内容を「受け取ろうと努力すること、受け取ろうとする対応をすること」が大切であるという先生からの言葉がとても印象に残った。その子の背景を推測して対応すること。障がいの特性を理解しつつ、その子の性格も加味しながら対応すること。保護者と話しやすい状況をつくって、たくさん話をして、信頼関係を築いていくことがその子に対してプラスになるのだと思った。

◆　それぞれの障がいの特性を学び、あいまいな部分がさらに理解できました。講義中に行った様々な演習を通して、たくさんの気づきを得ました。特に伝わり方の実験では、自分が思うほど相手の話を正確に理解していないことが目に見えて分かり、改めて伝え方の工夫や真に相手の意図を理解する必要性を感じました。今後の業務の中で、子どもたちとの信頼関係を築くことを第一に考え、彼らの立場に立って理解し、それぞれにあった支援に努めたいと思いました。